

創設まで

ルーテル教会の日本伝道とC.L.ブラウン博士

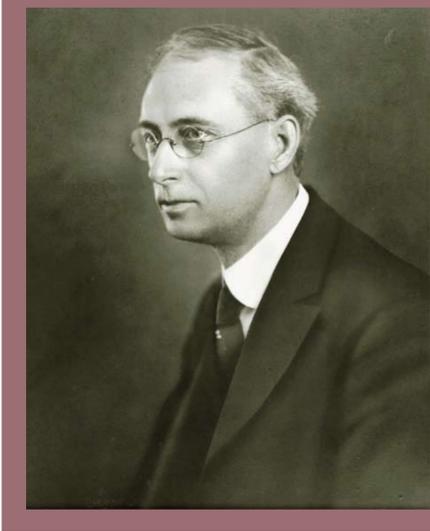


日本福音ルーテル教会は、1892(明治25)年、アメリカの南部一致ルーテル教会から派遣された宣教師によって設立されました。シェラーやピーリーを始めとする多くの宣教師の献身的な開拓伝道によって、佐賀から熊本へと広がっていきました。(左上)佐賀教会、(左下)熊本教会、1900(明治33)年頃の主な宣教師(左上から)ブラウン、ブラウン夫人、リッパード、(中央左から)リッパード夫人、エリカ・ジョンソン、(下段左から)スタイワルト、ウィンテル、ウィンテル夫人、南部一致シノッド教区(州)バーヂニア、テネシー、ノースカロライナ、サウスカロライナ、ジョージア、アラバマ、ミシシッピ、フロリダの8州

C.L.BROWN

チャールズ・ラファイエット・ブラウン

宣教師の中でも、「路帖熊本教会」や「路帖神学校」、「九州学院」の創設に最も貢献したのが、チャールズ・ラファイエット・ブラウン宣教師でした。ノースカロライナ州の農家に生まれ、伝道者となる決心をしてローノーク大学を経て、フィラデルフィアのルーテル神学校を卒業した後、1898(明治31)年11月日本にやってきました。1900(明治33)年12月、熊本に着任。新屋敷町435番地に居住し、精力的な伝道活動を始めました。そして、この熊本に、1909(明治42)年9月27日「路帖神学校」を創設し、1911(明治44)年4月15日に「九州学院」を開校したのでした。



『九州学院要覧』に掲載された最初のキャンパス計画鳥瞰図



『九州学院要覧』(1913年・大正2年)に掲載された最初のキャンパス計画の鳥瞰図です。本館と寄宿舎、食堂、院長住宅などは予定通り建てられました。神学校舎を含むチャペルは、ブラウン在任中、計画通りに建つことはありませんでした。

ここにチャペルが建つのを待ち望む九州学院の教授陣と400人の生徒たち



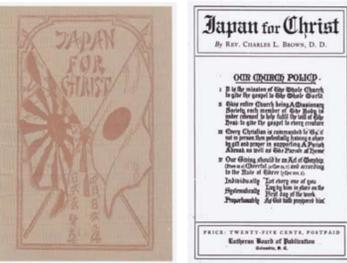
1914(大正3)年4月に撮影され、『タイディングス』6月号に載った写真です。チャペル建設予定地に九州学院の教職員と400名の生徒たちが立ち並び、アメリカのルーテル教会の会員に対し、支援をお願いをしているところです。遠山参員院長を始め、ブラウンやスタイワルト、九州学院神学部の教授陣もいます。チャペル建設は、九州学院の創設以来、懇請され続けていたことでした。

九州学院第1回卒業生42名(ブラウンの九州学院最後の写真)



1916(大正5)年3月11日九州学院第1回卒業生の写真です。5年前の1911年4月、122名入学し、卒業した生徒は42名でした。遠山院長やスタイワルトとともに写ったブラウンの九州学院での最後の写真です。

『Japan for Christ』



1909(明治42)年11月ブラウンは、1909(明治42)年11月にJapan for Christ』を、ミッションボードの支出により5,000部出版しています。これは、ブラウンが、日本の紹介とミッションについての幅広い理解をしてもらうために、南部一致シノッドへの日本報告書として出版したものです。これは、表紙と目次です。

『Japan for Christ』扉の聖句

・マタイによる福音書28:19~20
だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。



太平洋の彼方の伝道の地、日本の地図と、扉に掲げられた聖句です。

思い出深い熊本教会の日曜学校



思い出深い熊本教会の日曜学校の写真です。ブラウン夫人を始め、婦人伝道者・安達よし子さんや五高の学生(五高花機會堂第八回生:江間寛尚。ブラウン2度目の在任中にブラウンから受洗。)と思われる人物、そして日曜学校の愛しい子供達を、ブラウン宣教師が撮った写真です。ユダカックのカメラで撮ったようです。1915(大正4)年6月末、ブラウンは韓国へと、翌年42歳で南部一致ルーテル教会外国伝道局の総理事(書記)に選出され、2年半事務局で働きました。ブラウン一家は、その後再び日本を訪れることはありませんでした。

アフリカ西海岸リベリアで召天(ブラウンの旅路)



1921(大正10)年4月、ブラウン宣教師は全米キリスト教協議会からの要請を受け、インドを経てアフリカへと向かい、アフリカ西海岸のリベリアの伝道推進者活動に従事しました。1921(大正10)年12月5日、伝道地リベリアの現地で、合併症を伴った肺炎にかかり、47歳で天に召されました。

ブラウン博士の墓(現地リベリア)



ブラウン博士の亡骸が埋葬されたリベリアの現地に墓が建てられました。

Brown Memorial Chapel 1925(大正14)年2月竣工



九州学院が創立されて14年後、ブラウンが亡くなって4年後の1925(大正14)年2月、海外伝道局の支援によりブラウン記念礼拝堂(Brown Memorial Chapel)が竣工し、献堂されました。このヴォーリズ建築による礼拝堂は、九州学院のキリスト教主義学校としての今に至るまでの歩みを見届けてきたのでした。

ブラウン博士顕彰のプレート



ブラウン博士顕彰のプレート
ブラウン博士顕彰のプレート
目覚めた人々は、大空に光のように輝き、多くの救いとなった人々は、てこしに星と輝く。
(旧約聖書:ダニエル書12章2節)

1893(明治26)年佐賀で伝道開始



アメリカ南部一致ルーテル教会の日本伝道は、120年前の1893(明治26)年、佐賀で始められました。佐賀には1901年、日本で最初のルーテル教会の礼拝堂が建造されました。この礼拝堂は、現在、日本福音ルーテル教会志気館(熊本県)に移築されています。

南部一致シノッド派遣の二人の宣教師



ジェームズ・シェラー 1892(明治25)年~1896(明治29)年
ロバート・ピーリー ~1903(明治36)年
南部一致シノッドからJ.A.B.シェラーとR.B.ピーリーの二人の宣教師が派遣され、佐賀で伝道が始まりました。シェラーは、神経衰弱と思われる病のため、1896(明治29)年帰国しました。

チャールズ・ブラウン宣教師 日本宣教1898(明治31)年~1916(大正5)年

シェラー退任の後を受けて、1898(明治31)年12月、佐賀に着任したC.L.ブラウンは、2年後の1900(明治33)年12月14日、家族と共に新屋敷町435番地に仮寓し、熊本在留最初の宣教師として、熊本伝道を開始しました。

1898(明治31)年9月27日 山内直丸、熊本着任。山内牧師と家族(Japan for Christ)



1898(明治31)年9月27日、山内直丸牧師が熊本に着任。日本人の教役者(牧師)によるルーテル教会の布教が始まりました。相模山出身の鈴木直丸は、明治学院神学部本科に入学後、山内直丸の深川教会に転籍し神学校を卒業。山内直丸の招聘を受け、「佐賀十字教会」に赴任。明治29年、シェラー司式のもとに山内家の令嬢あやと結婚し、山内直丸となりました。そして、ルーテル教会の教役者(牧師)として、南部一致シノッドの新たな伝道拠点となる熊本に着任したのでした。「佐賀十字教会」は、1898(明治31)年6月に「日本福音路帖教会」と改称されました。

熊本教会と熊本宣教

1898(明治31)年10月2日 山内直丸夫妻と五高生副島松一の三人で熊本最初の礼拝 六間町本渡屋築舗跡の階上



山内直丸が着任した翌月の1898(明治31)年10月2日(日)、三位一体後第17主日に熊本教会最初の礼拝が行われました。仮教会として建てられたのは、六間町本渡屋築舗跡の階上でした。第五高等学校の学生・副島松一と山内夫妻の3人で礼拝でした。この10月2日が、日本福音路帖熊本教会の創立日です。

ブラウン熊本在留最初の宣教師として家族と



1900(明治33)年12月14日新屋敷仮寓「タイディングス」1906年1月号に掲載されたブラウン一家。長男チャールズ・アルフレッドは長崎で生まれ、次男ロバート・マーシャルは1902(明治35)年4月11日熊本で誕生。熊本にやって来たときは、まだ3人でした。

新屋敷 338 番地の宣教師館



ブラウンが伝道活動の拠点とした宣教師館。ブラウンの「Japan for Christ」(1909年11月刊行)より。

伝道活動中のブラウン宣教師



C.L.ブラウンは、路帖熊本教会の宣教師として伝道活動に従事しました。熊本教会の伝道所前。「基督教傳道報」の案内をしているところ。

熊本日曜学校のメダリストたち



メダルをつけて誇らしげな熊本日曜学校の生徒たち。日曜学校に休まずに続けて来た熊草のメダルを胸につけています。ブラウン宣教師が、「はい、神様の前で胸を張って!」と言って、カメラを向けている様子が伝わってきます。『タイディングス』1908年3月号より。

紫苑会治療所の待合室と診療所(大正期)



大正期の紫苑会治療所の待合室と診療所の様子です。「百年史の証言」 福田令壽氏と語る।より。

ブラウンが紹介した神道の寺院



TIDINGS(1906.2) 熊本市の金峰山西蔵、霊瀧洞(岩戸観音・雲瀧瀑布)ブラウンは、日本で宣教師活動をしている場合に、日本人の宗教や文化、風俗についても調査、研究をしました。舞臺宮本武蔵が、寛永20(1643)年ここに駕り、会得した剣術一致の境地を「兵法五輪書」に書き残した所としても知られています。

ブラウンとスタイワルトを囲んで(路帖熊本教会員)



1909(明治42)年、路帖神学校を開校した頃から、中央のブラウンとスタイワルトを囲んで路帖熊本教会員が並んでいます。左端に山内直丸牧師。

日本福音ルーテル教会伝道 20周年記念祝賀会



1913(大正2)年4月には、日本福音ルーテル教会伝道20周年記念祝賀会が佐賀で開催されました。宣教師20周年に、最初の教会憲法規則が制定されました。初めての調査では、信徒総数557人、宣教師を含む教役者22人、伝道地17ヶ所、内教会8でした。ブラウン、スタイワルト、ウィンテル、遠山参良らの姿もあります。

日本ルーテル教会宣教師とその家族



『創立二十年記念史』-TIDINGS,1913.3
この宣教師と家族たちが、ルーテル教会の日本伝道の担い手となりました。最前列左より、ペーパー、メイリハー、スタイワルト、スミス、バイネット、リッパード、アルフレッド・ブラウン、リッパード、マーンケル・ブラウン、前から2列目の子ども左から、フェイス・リッパード、マリ・ア・ウィンテル、ルイス・リッパード、クリステン・ウィンテル、ネリー・ウィンテル。3列目の夫人たち左から、ホルン夫人、ウィンテル夫人、ブラウン夫人、リッパード夫人、ミラー夫人、ニールセン夫人。最後列の男性左より、ホルン、ミラー、ニールセン、ウィンテル、ブラウン。『創立二十年記念史』(1914年大正3年)、TIDINGS,1913.3より。

熊本教会 1915(大正4)年頃 ブラウン夫妻の姿も(『ブラウン伝記』)



1915(大正4)年6月下旬、ブラウン夫人は、日本の長崎で生まれた長男チャールズ・フレッド、熊本で生まれた次男ロバート・マーシャルと三男リチャード・ハーレーを連れて、先に福岡の途に着きました。翌年の1916(大正5)年3月5日、ブラウンは、熊本教会の主日礼拝で、九州学院生徒宮原軍蔵以下19名に洗礼式を施しました。3月18日、ブラウンの送別会が熊本教会で開かれ、3月24日午後1時20分、150名の送りを受け、上熊本駅発の汽車で熊本を立ちました。ブラウンは再び熊本へ帰って来ることはありませんでした。柳が花びら成る教会として知られています。

ブラウン使用の聖餐用具



この聖餐用具を使って、ブラウン宣教師は聖餐式を執り行っていました。

1905(明治38)年6月20日 路帖熊本教会堂、竣工し献堂(Katherine Scherer Memorial Church)



1905(明治38)年6月20日、熊本教会の教会堂が竣工し、同日午後3時から献堂式が行われました。ブラウンが司式、山内直丸とリッパードが聖餐を奉読、ウィンテルが献堂の祈禱をささげました。次いで山内直丸の牧師就任満10年を祝賀し、山内は献堂説教をしました。参列者は従勢90名に達しました。入口右側にブラウン、左側に山内直丸が立っています。新しい教会堂は、キャサリン・シェラー・メモリアル・チャーチと名づけられました。ブラウンの「Japan for Christ」(1909年11月)より。

日露戦争(1904.2~1905.9)と熊本教会



完成したばかりの真新しい熊本教会堂の礼拝に、日露戦争の捕虜となったロシア兵の福音ルーテル教会員が参列しました。このロシア兵の捕虜は、フィンランド人ではなかったかと推察されます。ロシア人=ロシア正教、フィンランド人=ルーテル教会

熊本宣教とスタイワルト



1906(明治39)年1月、A.J.スタイワルトが宣教師として熊本に着任。熊本教会を中心に伝道活動を盛んに行われました。4月には、熊本教会の牧師館や日曜学校教室が設けられました。左の写真は、熊本教会堂のストリートサイドで、日曜学校の生徒たちが集まっています。

熊本聯合婦人会の事業として、「紫苑会治療所」が熊本教会の講義所に設けられました。山内直丸牧師が提唱し、福田令壽医師や遠山参良五高教授などが協力しました。



ブラウン一家は休暇で一時帰国しますが、ブラウンは熊本にミッションスクールを設立するために奔走します。日本へはスミス宣教師を伴って、1908(明治41)年9月15日にサンフランシスコからモンゴリア号で出航し、10月6日に長崎に到着。10月11日夕方、佐賀を経て熊本に帰りました。『TIDINGS』1908年9月号と11月号より。



ブラウンが不在の間、ミラー宣教師が伝道に従事しました。ブラウンが帰任すると、ミラーは博多に転じました。ミラーが使ったコダック製カメラ。TIDINGSより。